

4 都市計画に関する基本的な方針

Basic Policy on Urban Planning.

前述の将来展望を踏まえ、次に示す 4 つの方針に沿って都市計画を展開します。

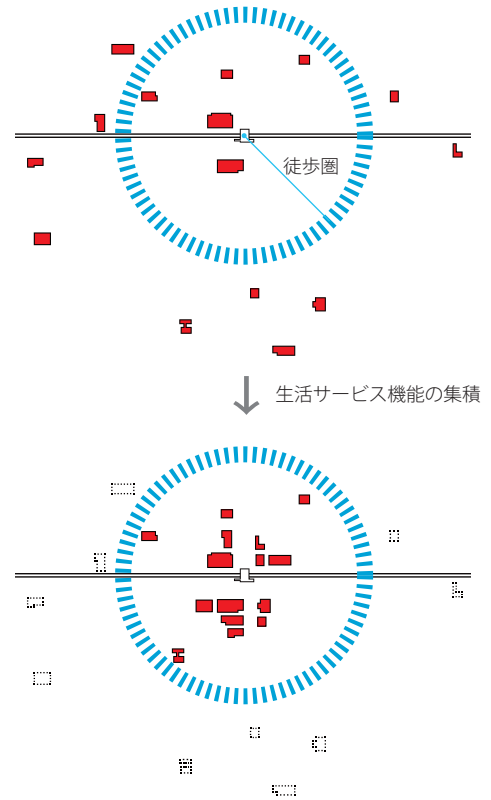
都市機能の立地適正化

人口の超高齢化を見据え、生活サービス施設へ徒歩で到達できる生活圏の形成を図るため、商業、医療、福祉、子育て支援などの生活サービス機能の立地を集約します。

本市の市街地は、神戸電鉄各駅から概ね徒歩 20 分圏内に収まる規模のコンパクトな住宅地からなっており、また、各駅周辺には商業・サービス施設が立地し、拠点となるエリアを形成しています。

今後も引き続き、鉄道駅に近接する地域の土地の合理的利用を一層進め、生活サービス機能の集積を図ると共に、鉄道駅から徒歩圏への居住を誘導します。

 立地適正化

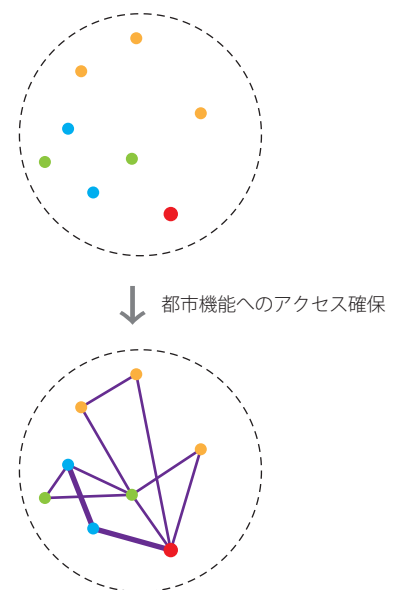


地域交通ネットワークの充実

商業、医療、福祉、子育て支援などの生活サービス施設は一定の人口密度（利用圏人口）に支えられているため、人口密度の高い地域や、利用者が集まる鉄道駅前に立地します。人口密度の低い市街地や遠郊外では日常生活サービスの徒歩圏での充足は難しくなります。

このため、都市機能の立地適正化の進捗に併せて、市内各地域の居住者等の拠点となるエリアへのアクセスを確保するため、公共交通の充実や道路網の整備による合理的な地域交通ネットワークを形成します。

 交通ネットワーク



都市防災力の強化

人口・世帯数の減少に伴う宅地ニーズの低下は、老朽空家の除却など都市防災力を高める好機ともいえます。このため、密集市街地の改善、水害や土砂崩落の発生しやすい地形など利用適性を踏まえた土地利用を誘導し、災害被害を最小限に抑えられるよう都市防災力の強化を図ります。

また、高齢者の増加に伴う社会保障の増大を見据え、効率的な行財政運営と居住者の安心、安全を同時に実現するため、既存インフラの計画的な更新や維持管理等を進めます。

📌 都市防災



↓ 除却・建替促進、不燃領域の増加

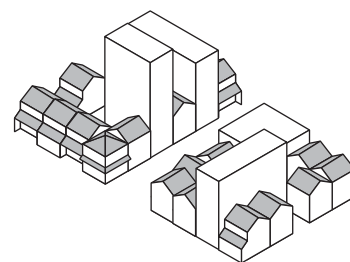


まちの魅力の向上

人口が減少する過程で地域の活力を失わないために、地域独自の歴史文化等に根ざした景観や農産物などの地域資源を活用し、地域の魅力や価値を高めます。

また、人口密度の維持やある程度の用途の混在、歩いて楽しい歩行空間の形成等により市街地の多様性を高め、まちの活気、活力の向上を図ります。

📌 まちの魅力



↓ 地域資源の活用、多様性の維持

